

平成22年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成22年12月22日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝総合振興局産業振興部〕

1 考え方

本集計は、平成22年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、各農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、水田・畑作経営所得安定対策のうち生産条件不利補正交付金（固定払・成績払）、先進的小麦等支援事業助成金、加工原料乳生産者補給金を含む。

なお、本集計には収入減少影響緩和対策交付金、農業共済金支払額は含まない。

2 平成22年の概要

**農協取扱高は、耕種部門が高温多雨の影響を受け減収、畜産部門は昨年並に推移し、
2,380億円**

◇耕種部門取扱高◇ 1,048億円(対前年比 95% [構成比44%])

本年は、4～5月の低温・日照不足と6月以降の記録的猛暑等により、小麦やてんさいといった寒冷地作物を中心に減収や品質低下が発生。

一方、雑穀・豆類は高温の影響により前年を上回る結果。

- 小麦については、猛暑による登熟期間の短縮から、子実の充実不足による収量の減少や製品歩留りが低下し、前年比27%減。
- 豆類については、大豆、小豆、菜豆とも平年並以上の収量を確保したことから、全体では11%増。
- ばれいしょについては、植付時期の低温・日照不足の影響による玉数の減少や、猛暑による規格外の多発により、食用ばれいしょの価格が高値傾向となったものの、前年比6%減。
- てんさいについては、高温多雨の影響による収量と糖分の低下により、前年比24%減。
- 野菜については、全般に収量減となったものの、にんじん、だいこんなどが高値で取引されていることから、前年比9%増。

◇畜産部門取扱高◇ 1,332億円(対前年比 100% [構成比56%])

○ 酪農は、4月からの乳価引下げや、猛暑の影響で乳質が低下したことから、前年比3%減。

○ 肉用牛は、景気の低迷により高級志向の黒毛和種のと畜頭数は減少したものの、乳用種等のと畜頭数が増加したこと、家畜市場での個体取引における交雑種等の高値推移により、前年比6%増。

3 取扱高集計結果

(単位：億円、%)

区分	平成22年		平成21年		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	取扱高	比率	
耕種	麦類	85	3.6	117	4.8	▲32	73
	雑穀・豆類	122	5.1	110	4.5	▲12	111
	ばれいしょ	202	8.5	215	8.8	▲13	94
	てんさい	141	5.9	185	7.6	▲44	76
	野菜	221	9.3	202	8.2	▲19	109
	その他	9	0.4	9	0.4	0	100
	固定払	268	11.3	268	11.0	0	100
小計	1,048	44.0	1,106	45.3	▲58	95	
畜産	酪農	908	38.2	936	38.3	▲28	97
	生乳	805	33.8	826	33.8	▲21	98
	肉用牛	387	16.3	364	14.8	▲23	106
	豚・鶏	16	0.7	19	0.8	▲3	84
	その他	21	0.9	19	0.8	▲2	111
小計	1,332	56.0	1,338	54.7	▲6	100	
総合計	2,380	100.0	2,444	100.0	▲64	97	

※ 取扱高は税抜き。

